

単元名 6 いにしえの心にふれる ―いろは歌 古典の世界

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 七五調のリズムを味わいながら、「いろは歌」を音読（暗唱）し、仮名遣いや言葉遣い、古語の意味を理解することができる。
- (2) 古文の特徴と大まかな意味を理解し、当時の人々の生活や文化、ものの見方や考え方を、現代と比較して捉えることができる。
- (3) 「いろは歌」や「古典の世界」から、古典に対する興味や関心をもとうとする。

標準的な展開例

10210214_001

【準備等】五十音図、百人一首など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「いろは歌」の特徴と概要を捉え、リズムよく音読する</p> <ul style="list-style-type: none"> 「いろは」や「いろは歌」について知っていることを発表する。 本時の学習課題をつかむ。 ★「いろは歌」の特徴を知り、リズムよく音読しよう。 「いろは歌」の原文を現代仮名遣いで読む。 <p>○「いろは歌」の原文を視写する。</p> <p>○「いろは歌」の原文の特徴を知る。</p> <p>○「いろは歌」の意味を理解し、漢字仮名交じり文を音読する。</p> <p>○「いろは歌」を音読（暗唱）する。</p> <p>○「古典の世界」（p. 156）を読み、3年間の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「いろは歌」の原文を板書し、歴史的仮名遣いのまま読ませる。その後、現代仮名遣いで読み方を理解させる。 「ゐ」「ゑ」の読み方について説明する。 <ul style="list-style-type: none"> 「五十音図」を活用してもよい。 学習プリント等を活用し、現代仮名遣いも書かせるとよい。 気付いたことを発表させる。 解説文を読ませ、「いろは歌」の特徴をまとめさせる。 漢字仮名交じり文を現代仮名遣いで読ませた後、現代語訳を読ませる。 教師が現代語訳を1行読むごとに、漢字仮名交じり文を指でなぞらせるとよい。 2人組やグループでリズムよく音読（暗唱）させる。 暗唱テストを行うのもよい。 【評】大きな声でリズムよく音読する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 和歌や物語、随筆など、3年間で様々な古典作品に触れることを伝える。

【 備 考 】

小学校では、古文や漢文を音読し、古典に触れる機会があった。しかし、古典について深く学ぶのは、この単元が初めてである。そのため、図版を多く盛り込んで古典世界へのイメージを楽しく広げるとともに、手応えのある内容が用意されている。古典の文章に読み慣れるとともに、内容の手応えを感じられることが、古典への興味や関心につながっていくことになる。古典の中に、時代を超えた人間の姿や心を見いだせるように、この単元を学習させたい。